

(有)ふくいみらい社

有料老人ホームあんしん村

介護付き有料老人ホームは北陸でも大半が郊外にある。だが、2006年開業のあんしん村は福井市中心部に近く入居者の家族が訪問しやすいと評判。施設を運営する林智之さんは前職で企業のシステム開発を担当していた業界の異端児だ。

「IT企業から老人ホームへ

ふくいみらい社社長 林智之さん

あんしん村は最も重い「要介護5」の高齢者も受け入れる本格的な老人ホーム。ただ他の施設と大きく異なるのは、JR福井駅から車で10分ほどの閑静な住宅地にあることだ。あんしん村がある場所は林さんが生まれ育った地元で、「周囲に溶け込むことを重視している」という。実際、あんしん村は遠目からは大きめの一軒家しか見えない。

地域社会との交流を増やそうと、偶然がきっかけ、富山県の大学を卒業して福井の企業の内定ももらったが、東京

ほくりく ism



地域になじむ介護めざす

のIT(情報技術)系企業を選んだ。「自分は次男で東京に出たかったので、しばらくはいるつもりだったが、29歳のときに実家の近くに住む伯父が事故で亡くなった。伯父の家に養子縁組されていたため、伯父が所有していた広大な土地を相続することになった。看護師だった母親らの声もあり、老人ホームを開くことにした。

肩書は社長だが、自らも夜勤に入るなど積極的に現場に顔を出す。今年に入り、地域の高齢者の通院や買い物代行するタクシー事業を始めた際も自ら2種免許を取得し、運転手も務める。

「介護の世界はIT化が遅れている」が口癖。前職での経験を生かして、業務管理のためのシステム設計を自分で手がける。米アップルの多機能携帯端末「iPad(アイパッド)」を使った「地域の医療施設と連携した情報共有の仕組みもつくりたい」と、好奇心に満ちた目を細める。

|| 福井市出身・37歳